

第6回全国銃剣道 指導者研修会



中学校必修化対応・高校部活動班：直突

第6回全国銃剣道指導者研修会（主催＝日本武道館、全日本銃剣道連盟、後援＝スポーツ庁）が11月8日～10日の3日間、千葉県・勝浦市の日本武道館研修センターで、参加者65名が集まり実施された。

本研修会は、日本全国で銃剣道を指導する中学、高等学校の教員及び社会体育指導者を対象に、我が国の伝統と文化に立脚した理論と実技の研修会を実施し、「銃剣道」の理解を深め、専門的な知識・技術・指導法の充実を図り、もって全国的な銃剣道指導者の養成と資質向上に寄与することを目的として行われた。

■ 1日目（11月8日）

はじめに鈴木健^{すずき たけし}全日本銃剣道連盟副会長兼専務理事が挨拶に立ち、「本研修会は、指導者の技術向上はもちろんですが、中学校武道必修化に伴う銃剣道の授業について、理解を広げる目的を持っています。本年はスポーツ庁の事業に参画し、茨城県、新潟県、富山県、滋賀県の4校で授業を行うことになりました。その実施に際しご尽力いただいた先生方も本研修会に参加されていますので、お話を伺いながら、充実した研修会にしていだければと思います」と述べた。



鈴木 健
副会長・専務理事

続いて、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が挨拶に立ち、「次期学習指導要領に銃剣道が並列明記されることが決定し、新たな舞台へと進みます。令和元年度はスポーツ庁が外部指導者を活用した複数種目のモデル校実践を全国9ブロック96校で実施する予定です。鈴木副会長のご報告のとおり、その内の4校で銃剣道の実施が内定しています。これは学習指導要領への並列明記が決定したこと、武道振興大会の決議文に武道9種目を並列明記し、外部指導者を活用したモデル実践校の複数種目の実施を要請したことにより、事業化が実現したという経緯があります。参加者の先生方には、技能・資質の向上はもとより、中学校武道必修化の現状や銃剣道の発展についても学び、実施校や愛好者が増えることを期待しております」と述べた。



三藤 芳生
常任理事・事務局長

開講式終了後、『中学校武道必修化指導書DVD』の武道編を全員で視聴した。続いて、山神眞一^{やまがみ しんいち}特別講師による講演『これから求められるジュニア指導法』が行われた。隠れた才能・能力などを引き出し、指導者と生徒が一体となって成長する「Educe（啓育）」が重要とし、そのために指導者がどのような視点を持てばよいか、生徒との関

係で注意する点はどのようなことかについて着眼して講演した。山神特別講師は締めくくりに、「相手のことを引き出しながらコミュニケーションを取り、広い視野・深い洞察力・高い理想を持って指導に臨むこと。生徒がより良い学習をするための場を調整・促進できる指導者を目指してほしい」と述べた。

その後、滝沢元氣講師たきざわげんきの司会進行により、『学校授業における銃剣道指導法』が行われた。実際に外部指導者として授業を行う滋賀県銃剣道連盟の受講者が、2時間設定授業の1時間目を想定して模擬授業を行った。終了後、滝沢講師は総括として「授業時間の配分を考えながら内容を組み立てることが重要。また、突きに対する目標物があればより円滑に進められるのではないかとまとめた。

■ 2日目 (11月10日)

中学校必修化対応・高校部活動 (A 班) と社会体育指導者 (B 班) に分かれ、目的別実技研修が行われた。A 班は滝沢講師が中心となり、午前中は、礼法、木銃の持ち方、構え、直れ、木銃を持つての足さばき (送り足・開き足)、直突が行われた。直突では、新聞紙やゴムボールを突いたり、三角コーンやアーチェリーの的紙を組み合わせてゲーム性のある練習を行った。目標物については、本研修会で使用したものだけではなく、それぞれの学校や道場にあるものを使い、柔軟に指導していくよう伝えられた。

午後からは、号令のもと送り足に合わせて突く練習、直突 (基本の交差、反対の交差)、銃剣



ゲーム性を取り入れた練習方法

道の形 1 本目と 2 本目 (中学校授業用)、用具を着装した突き・受けを行った。続いて、一日目に行った模擬授業の 2 時間目が実施された。滝沢講師は研修後、「生徒に伝わる言葉選びをすること、生徒に目が届くような隊形を取ること、時間配分の調整が必要」と講評した。



用具を着装しての突きと受け

B 班は佐藤亨講師さとうのりつぐ、瀬尾憲次講師せのおのりつぐの指導で、基本技を中心に応用技、姿勢作り、指導法などが実施された。

最後に班ごとに研究協議 (A 班 : 2 日間行った模擬授業についての意見交換、学校の短時間授業における重点事項確認、部活動における指導上の問題点や運営における課題について、B 班 : 地域道場での運営上の課題と取組、小中学生それぞれにおける指導上の問題点について、女子選手への有効な指導法、問題点と普及するための課題について) が行われ、二日目は終了した。

■ 3日目 (11月11日)

まず、鈴木健副会長兼専務理事による講義『全日本銃剣道連盟における必修化への対応と取組』が行われた。講義では、銃剣道連盟の武道必修化に関する経緯、中学校銃剣道授業についての施策概要や現状、武道推進モデル校制度の仕組みに続き、今後の課題が述べられた。次に、二日目に行った研究協議についての発表が A 班は田村聖一助講師、B 班は山口あや子助講師により行われた。

閉講式では中島昭博日本武道館振興課長が修了証授与、佐藤講師が講師講評を、最後に鈴木健副会長兼専務理事が主催者挨拶を行い、研修会の全日程を終了した。